

<記者会見ダイジェスト>

同志社大学

(宮本啓希監督)

本日は、伝統ある定期戦ということで気持ちを高めて試合に臨みました。チームのテーマとしては、最初の 20 分でどれだけ自分たちのプレーを出し切るか、積極的にやっていけるかを掲げましたが、前半は何もさせてもらえませんでした。自分たちが動こうとしなかったのが敗因と考えています。

(梁本旺義キャプテン)

慶応さんに対して何もできませんでした。自分たちの積極さが足りなかったと思います。

(大槻健人選手)

前半の入りを大事にしようと言っていましたが、入りが悪かったです。後半の入りは立て直せましたが、そこから勢いに乗れず、相手のペースに付き合っていました。

質疑応答

——前半の入りがうまくいかなかったとのことですが、ハーフタイムにどのような声かけをして、後半の入りが良くなったのでしょうか。また、それを継続できなかった要因は何でしょうか？

(梁本キャプテン)

前半は一つ一つのテーマを実践できませんでしたが、後半の入りは一つ一つのプレーを大事にすることができました。後半はこれを継続しようとしたが、自分たちのプレーをさせてもらえませんでした。

——静岡で試合をするのは初めてだと思うが、その感想はどうですか？

(宮本監督)

日本代表が大活躍し、素晴らしいことが起こった場所で、歴史ある定期戦をさせていただくということで、ワクワクした気持ちで準備を進めました。両チームのちょうど真ん中の場所で、今後も引き続き試合ができるように、しっかり強くなっていかなくてはならないと思っています。

(梁本キャプテン)

素晴らしい環境でラグビーをすることができて良かったです。次はしっかり勝てるように頑張りたい。

(大槻選手)

天然芝で観客席も沢山ある中で、普段やらない素晴らしい環境でできて良かったです。

慶応義塾大学

(栗原 徹監督)

素晴らしいスタジアムで試合をする機会を与えて頂きありがとうございます。コロナ禍で制約が多いですが少しずつ日常が戻ってきて、3 年ぶりの春シーズンを過ごしています。

練習はこれからも続いていきますが、A チームの試合は春の最終戦で、選手が頑張って、良い試合ができたと思っています。一步間違えば逆の点数もありえた素晴らしい同志社大学だったので、この結果をうれしく思っています。

(今野勇久キャプテン)

同志社大学との歴史ある一戦をこの場所で行えたことをうれしく思います。春大会でできなかったことをレビューして改善することにフォーカスしていました。きつい時間帯、うまくいかない時間帯、体力が持たない厳しい時にどういうパフォーマンスをするか、チームでどうやってコミュニケーションをとるかにフォーカスしていたので難しい試合でしたが、チーム一丸になれたことがこの結果になったと思っています。

(永山 淳選手)

春シーズン最後の試合で、流れが行ったり来たりする苦しい時間帯もあったが、最後は自分たちに流れを引き寄せられて、練習でやってきたことがかなり出せた試合でした。スコアは開きましたが、両チームが近い内容の中で試合を取りきれたと思います。

質疑応答

——後半の入りに同志社大学に流れが行きかけたが、最後自分たちに引き寄せられた要因は何ですか？

(今野キャプテン)

試合前から 80 分間常に自分たちが支配できる試合ではないと認識していましたので、相手の時間帯になってもしっか耐えて、自分たちが何をするか、コミュニケーションをとって明確にしていこうとしていました。だからこそ一喜一憂せずに自分たちがやることをプランどおりにできたと思います。

——筑波大学戦は同点引き分けに終わったが、勝ち切るために何をしてきましたか？

(今野キャプテン)

練習の中で出た答えとして、きつい時に他のせいになしたり、レフェリーにあたるのではなく、きついからこそ自分たちにフォーカスを当てようと話をしていました。それらについての共通認識があったこと、リマインドし続けるコミュニケーションがあったことで成長ができたと思います。

——目指すチーム像があると思うが、そこを 100%とすると今のチーム状態は何%ですか？

(今野キャプテン)

60%くらい。夏に強くなるチームなので、山中湖にこもって激しい練習をすればもう一皮むけると思います。

——永山選手はトライもキックも決めて大活躍でした。エコパでの大活躍に感想があればお願いします。

(永山選手)

後半のトライは、今シーズンこだわってきた得点源のフォワードのラインアウト、モールからで、フォワードがきつい時間にしっかりと押してくれて生まれたスペースだったので、取りきれてよかったです。

キックは、今シーズン僅差の試合が続いていたので、こだわって練習してきた部分で、大きなスタジアムでゴールポストも高くていつもと違う環境の中で得点として残せたのはよかったと思います。

——定期戦を静岡で行うのは初めてだと思いますが、その感想は？

(栗原監督)

本当にありがたいです。できれば来年も再来年も、この先ずっと静岡でできたらと思います。同志社大学の宮本監督共々思っています。

(今野キャプテン)

日本がアイルランドに勝った歴史的な地で、自分たちもプレーできたことを光栄に思っています。多くの人に影響を与えたいと思っていますので、新たな地で慶応大学ファンが増えればうれしいです。

(永山選手)

前泊も含めて試合前から良い準備ができ、良い環境で試合をさせていただきました。春シーズンの最後を良い形で締めくくれたので感謝しています。

(文責：静岡県ラグビーフットボール協会 北島 修)